

令和五年度公演のご案内

梅若研能会



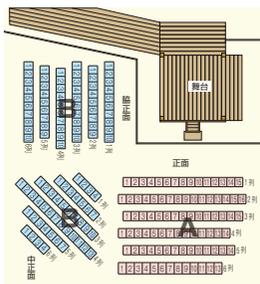
下半年例会通し券 (9・11・12月公演各1枚、計3枚)

指定席A 19,100円 正面中央 ※学生 11,100円 (要学生証)

指定席B 16,300円 上記以外 ※学生 8,100円 (要学生証)

9・11月公演 (セルリアンタワー能楽堂) 入場料 (全席指定)

指定席A 6,500円 正面
指定席B 5,500円 上記以外
学生席 各席 2,500円引き(要学生証)

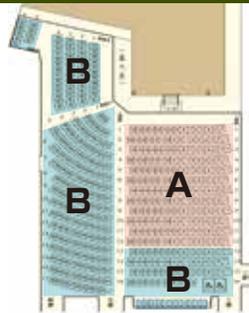


セルリアンタワー能楽堂

Ceruleantower Noh Theater
渋谷区桜丘町 26-1 地下 2 階
TEL 03-3477-6412

6・12月公演 (観世能楽堂) 入場料 (全席指定)

指定席A 7,000円 正面
指定席B 6,000円 上記以外
学生席 各席 3,000円引き(要学生証)



観世能楽堂 Kanze Noh Theater
中央区銀座 6-10 GINZA SIX 地下3F
TEL 03-6274-6579

YouTube 演目の見どころ解説動画を公開中!



Facebook フェイスブックはじめました! 公演情報更新中!



お問い合わせ・お申し込み

e+ (イープラス)
<https://eplus.jp/ath/word/69495>



カンフェティ TEL 0120 (240) 540 (平日10:00-18:00)
<http://www.confetti-web.com/umeken>



公益財団法人 梅若研能会

〒151-0066 渋谷区西原1-4-2 TEL 03 (3466) 3041
《メールアドレス》 staff@umewakakennohkai.com
《ホームページ》 <http://www.umewakakennohkai.com>



二世梅若万三郎追善公演
橘香会 令和5年10月22日(日)
午後1時開演 国立能楽堂

能	仕舞	舞囃子	狂言	能
天	当	卒都婆	箕	松
	之	小町		
鼓	麻	段	被	風
弄鼓之舞	キリ	アト		見留
シテ			シテ	ツレ
梅若	梅若	梅若	野村	梅若
紀佳	万佐晴	久紀	万作	志長
				シテ
				梅若
				紀長



〔天鼓〕



〔松風〕

橘香会 (国立能楽堂) 入場料 (全席指定)

指定席S 12,000円
指定席A 10,000円
指定席B 8,000円
指定席GB 6,000円
学生席 各席 3,000円引き(要学生証)



国立能楽堂 National Noh Theater
渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1
TEL 03-3423-1331

国立能楽堂
座席表

六月

十一日(日) 午後一時開演
観世能楽堂

仕舞 三番

能 弓八幡 シテ 青木 健一
ツレ 梅若千音世

狂言 仏師 シテ 野村 万作

能 海士 シテ 梅若 志長
子方 長澤 佑香

能 弓八幡(ゆみやわた) 後宇多の院の勅使が岩清水八幡宮に参詣すると、袋に包んだ弓を捧げる老人と、若い男と出会う。老人は桑の弓、蓬の矢にて世を治めた物語りをし、高良(かわら)の神は我なりと明かして姿を消す。やがて本体を現した神は颯爽と神舞を舞う。

狂言 仏師(ぶっし) 在所で持仏堂を建立した田舎者は、中に安置する御仏を買い求めに京の都へやってきましたが、なかなか仏師を探せない。そこへ詐欺師が近づき自ら仏師であると偽って……。

能 海士(あま) 藤原房前(ふさぎき)は志度の浦へ母の追善に赴き、一人の海人から自分の出生の秘密を聞く。海人は玉取りの有様を物語り自分こそ房前の母の亡霊であると告げ消え失せる。供養をするうち亡霊は竜女の形で現れ、舞を舞って成仏を喜ぶ。

十一月

十六日(木) 午後一時開演
セルリアンタワー能楽堂

仕舞 二番

舞囃子 葛城 シテ 遠田 修

狂言 止動方角 シテ 野村 万蔵

能 清経 シテ 青木 一郎
替之型
ツレ 青木 健一

狂言 止動方角(じどうほうかく) 茶競べに出掛ける予定の主人は、太郎冠者(召使)に伯父のところへ行つて、茶道具をはじめめ大刀や馬など、あれこれと借りて来るよう命じます。已む無く訪ねた太郎冠者に、伯父は所望の数々を貸し与えますが、中でも所有の馬には悪い癖があつて……。

能 清経(きよつね) (きよつね) 平清経は豊前の国柳が浦にて入水してしまつたので、身内の淡津の三郎は形見を持って清経の妻を訪ね、その死を報告する。その夜の妻の夢に清経が在りし日の姿で現れ、自分の死に至るまでの物語を語る。

令和五年度 公演のご案内



【海士】



【平部】



【清経】



【藤戸】



【融】

九月

二十一日(木) 午後一時開演
セルリアンタワー能楽堂

仕舞 二番

舞囃子 鞍馬天狗 シテ 古室 知也

狂言 文山立 シテ 山本泰太郎

能 半部 シテ 中村 裕

狂言 文山立(ふみやまだち) 二人の山賊が口論の末果し合いを始めますが、見物人もいないのに闘って死ぬのは犬死同様と思ひ書置きを残します。それを妻が読んだらば、さぞかし悲しむであろうと感じた山賊たちは……。

能 半部(はじとみ) 北山雲林院にて立花供養をする僧の所へ、一人の女が訪れる。女は夕顔の精と名乗り、五条辺りを尋ね給えと消え失せる。僧が出かけると夕顔棚の内に現れた女は、光源氏と夕顔の君の昔語りをするのだった。

十二月

十日(日) 午後一時開演
観世能楽堂

仕舞 三番

能 藤戸 シテ 長谷川晴彦

狂言 岡太夫 シテ 大藏彌太郎

能 融 シテ 加藤 眞悟

能 藤戸(ふじと) 佐々木盛綱が先陣の功により賜った備前の児島へ領主として行くと、一人の女が現れ、息子を殺された悲しみを訴え出る。盛綱はその夜の事を語り法会を営むうち、漁師の霊が現れ恨みを述べるが、法力によって成仏する。

狂言 岡太夫(おかだゆう) 舅(じゅうと)の家で出された蕨餅をあまりの旨さに至て平らげた男。蕨餅は、詩には岡太夫と朗詠され、娘が作り方を知つていてと教えられる。帰宅して妻に蕨餅を作らせようとするも、名を忘れた男は、妻に詩を朗詠させ思ひ出そうとするが……。

能 融(と) (と) 京都六條河原の源融の旧址を訪ねた旅僧が汐汲みの老翁と会い、河原の大臣とよばれた融の風流事をきく。汐汲みの翁、まこととは融の亡霊が夜半に姿を現して、夜すがらみやびな遊舞をたのしみつつ消え失せる。